



「カテキズムの学び」

第37回「偽証してはならない」(後半)



9月22日に十戒の第8の掟である「偽証してはならない」の後半を学びました。サクラファミリアでの講座の様子は上のQRコードから視聴できます。

「偽証してはならない」つまり「嘘をついてはならない」という掟は普遍なものです。個々のケースにおいては他の条件も関わってきます。

具体的な状況において、真実を求める人にそれを明かすのが適当であるか否かを兄弟愛のおきてに基づいて判断しなければなりません。(2488番)

他人の善益や安全、プライバシーの尊重、共通善などのためであれば、知られてはならないことを伝えなかったり控え目に話したりしても差し支えありません。(2489番)

たとえば、街頭インタビューで「おいくつですか?」と尋ねられた際に、「忘れました」と返答しても嘘にはなりません。5歳ぐらいであればサバを読んだ年齢を言ってもいいかもしれません……。けれども、病院の問診票には年齢を正確に書かなければなりません。

また、カテキズムは「真理を口外しない」ことの例として、絶対的な守秘義務がある「ゆるしの秘跡の秘密」と、相対的な守秘義務がある「職業上の秘密・口外しないという条件でなされた内輪話の秘密」を挙げています。

今回の箇所では、社会的コミュニケーション・メディアにおける真実についても言及されていました。

ジャーナリストには、情報を流す際には真理に仕え、愛を損なわないという義務があります。(2497番)

そして、昨今話題になっているいわゆるフェイクニュースについての言及もあります。

メディアを用いて世論を操作するために偽りの情報を流すことは、どんな理由があってもゆるされません。(2498番)

最後に、「真理と美と宗教芸術」という項目がありました。

「神にかたどられて造られた」(創世記1:26参照)人間は、創造主である神とのかかわりという真理を芸術作品の美しさを通して表現します。(2501番)

「わたしは真理である」(ヨハネ14:6)と言われたキリストに倣う生き方をしたいものです。(文 酒井俊弘補佐司教)



子どもの権利を訴える空野佳弘弁護士

一家に寄り添ってこれた、教区社会活動センター・シナピスのビスカルド篤子さんが支援状況を話され、姉のMさん(大学3年生)、弟のSさん(大学1年生)が今の状況と将来の希望を話された。

仮放免者には住民票や保険証はなく、移動は制限され、働く権利もない。Mさんは、父親が強制送還されて以来6年間、強制送還の

特別許可が必要。力を貸してほしい」と訴えた。これまでの裁判で弁護にあたってこられた空野佳弘弁護士は「子ども権利条約

9月23日(金・祝)14時から、サクラファミリア(大阪梅田教会 聖堂において、標記の学習会を行なった。参加者は約60人。

日本生まれ育ちながらも在留資格がないMさんの話を今年7月にお聴きし、彼らの基本的な人権が奪われ

「学習会」を企画した。一家に寄り添ってこれた、教区社会活動センター・シナピスのビスカルド篤子さんが支援状況を話され、姉のMさん(大学3年生)、弟のSさん(大学1年生)が今の状況と将来の希望を話された。

学習会

「外国ルーツの子ども在留特別許可を求めて」報告

恐怖と闘ってきたが、最も衝撃を受けたのは成人式の招待状が来なかったことだった。「自分は、日本に存在していないことになって

で保障された子どもの権利を、日本は守らなければならない。世論が黙っていては入国管理法の改悪さえ実施される」と多くの人の力が必要だと話された。

「日本を故郷と思っている子どもたちとその家族を追い出さないでください。一人でも多くの人に在留特別許可を与えてください」——この日本カトリック司教団からの署名の呼びかけを大きな力にしなければならぬ。会場では「法務大臣への在留特別許可を求める署名」を行ない、教会・地域でも署名活動をしていただくようお願いした。最後に、シナピス・センター長の松浦謙神父の祈りでの学習会を終えた。

文 外国ルーツの子ども達を支援する阪神地区有志の会

訃報



フリオ・富田末彦神父(オプス・デイ所属人区)は、10月2日、骨髄異形成症候群のため帰天。85歳。メキシコ、ソノラ出身。

1968年、司祭叙階。70年来日。以後、オプス・デイの本部を拠点に、大阪教区、および、日本各地のオプス・デイの司牧に従事。趣味のテニスは福音宣教の機会となっていた。療養中も多くの人びとの見舞いを、笑顔とユーモアで受け、最後まで司牧者の心を失わなかった。オプス・デイ創立記念日の10月2日未明に主の御許に召された。

「生きる」——難民移住者

悩む海外への寄付

教会法では、寄付金は意向に沿って使うよう定められています。シナピスも寄付の意向が不明な時には寄付者に連絡を取って確かめるように努めます。

私は一度「イラン国境の難民に援助活動をするアリスさん」をこのコラムで紹介したことがあり(本紙7月号参照)、何人もの方から寄付を頂きました。



アリスさんが送ってきた動画の一場面

老人にばかり食べ物や薬を配っている。私たち家族だって空腹なのに。日本人から預かった大事なお金を使ったが「動画なんていくらでも加工できます。こんな嘘つきが沢山いて善

にアリスさんの書類を確認してもらいました。すると、ずさんで虚偽と思われる物が混じっていると指摘されたので私は送金を止め、アリスさんに停止の理由を説明しました。アリスさんは納得がいかず「篤子さん、動画

意の日本人を騙して同国人として恥ずかしい」と言われ、私はイランへの援助を一旦打ち切りました。

ある日、アリスさんの娘から私に連絡がありました。「父が家族を置いて出て行った」「父は外の子どもや

喧嘩になって出て行った」。私はアリスさんに電話をしました。「私の妻と子どもたちはまだ元気。外では助ける人が誰もいなくて死にそうなのでいっぱい。日本人

(文 シナピス事務局 ビスカルド篤子)

大阪教区のカトリック病院 ガラシア病院

特徴的な医療
ホスピス(緩和ケア)
リハビリ・神経内科
肝臓内科・循環器内科

医療法人ガラシア会
理事長 前田万葉 大司教
チャプレン 松本信愛 神父

〒562-8567
箕面市栗生間谷西 6-14-1
☎ 072-729-2345

医療法人ガラシア会

9月21日(水)、当病院の記念ホールで開いた介護老人保健施設のお誕生日会。高槻教会の堀江静三さんにピアノを演奏していただきました! 題して「老体に鞭打ちピアノ演奏」。楽しいひと時となりました。当日ライブ配信した演奏はYouTubeでご覧になれます。【YouTube内「ニューライフガラシア」で検索】